

平成 23 年度ヒラメ稚魚分布密度調査結果（太平洋）について

当研究所では天然ヒラメの稚魚分布密度調査を平成11年から行っており、今年は8月2日、8月27日、9月13日に桁網（水工研Ⅱ型）を用いて太平洋の三沢市沖8点で行いました（図1）。ヒラメの分布密度は桁網効率を0.28とすると0～44尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました（表1）。採集したヒラメの全長組成は8月2日には20～40mmの範囲、8月27日には水深5mでは80mm、水深10mでは30mmが主体、9月13日には50～60mmが主体でした（図2）。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、今年は34と昨年より高い水準になりました（図3）。これまでの調査結果を見ると、太平洋南部では着底指数が高かった年の翌年に1歳魚の漁獲尾数が多くなる傾向があることから、来年の漁獲は前年を少し上回ると考えられます。

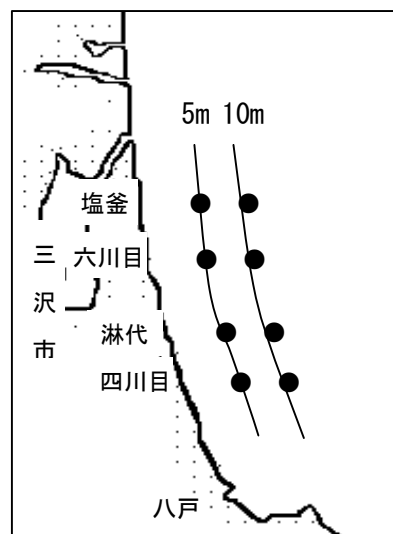


図 1 調査地点

表 1 ヒラメ分布密度

太平洋	水深	(尾/1,000m <sup>2</sup> )								5m 平均	10m 平均
		調査月日/調査点	四川目	淋代	5m 六川目	塩釜	四川目	淋代	6川目		
	8月2日	0	0	12	0	15	0	6	10	3	8
	8月27日	15	26	23	25	0	7	7	16	22	7
	9月13日	38	28	27	44	17	15	14	18	34	16

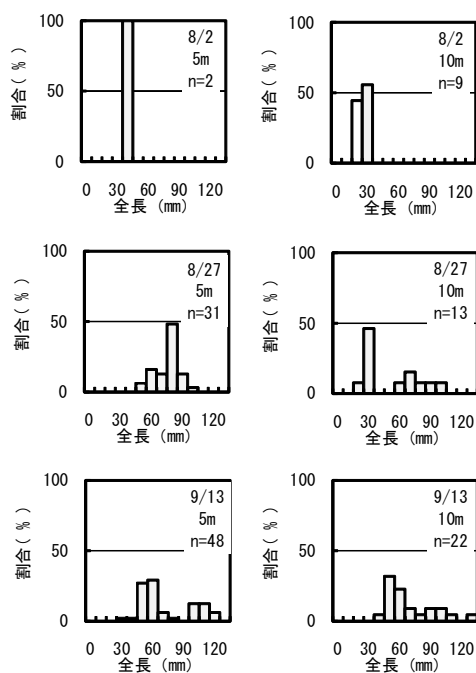


図 2 採集したヒラメの全長組成

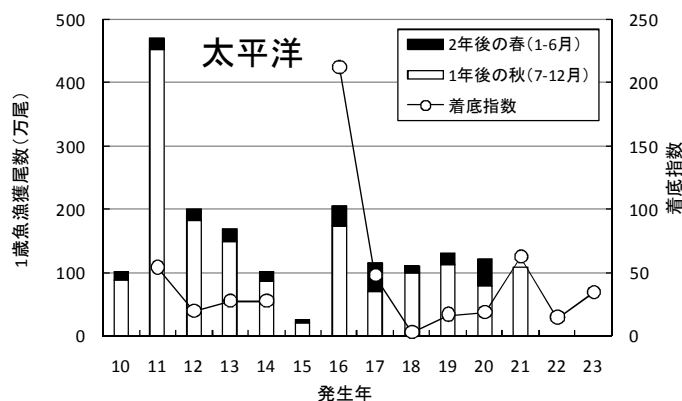


図 3 太平洋のヒラメ着底指数の推移